



RD10 04.4.1.

「大変という言葉は消して…」

今回のインタビュは、鎌倉教会長の小西真代先生です。先生は昭和三十四年に、生まれ育った幡下教会（名古屋）から、鎌倉教会に嫁いで来られました。先生が四十九才の時に、同じ年齢のご主人が突然死（脳内出血）をされ、その三年後に、先代教会長が亡くなられ、覚悟する余裕もなく教会長を拝命されました。

☆長年、教会長の御用に立たれていて、大変だった事も多くおありだったと思うのですが？

「それは、色々な事がありました。でも、それを大変だと思いませんでしたし、今も苦労したというふうには受取っていません。」

結婚当初は、名古屋の下町育ちの私にとって、鎌倉の風土や、気質に合わせる事が大変で、体調も崩しました。

家庭生活にも色々な起伏があり、

とうとう四十四才の時に、九十%『ストレス』が原因の癌（大腸）を患い、しかも末期症状の中、入院、

手術に於て、数々の御練り合わせ、おかげを頂き、二十六年間、神様が出会わせて下さった医師の手を離れる事なく、検

川でスベって山でコロんで…とってきました

# interview

第7回 小西真代先生（鎌倉教会）



査を重ねつつ、今日の命を頂いて居ります。―

☆ストレスとは恐ろしいものですね。

「そろそろ退院という頃、実家の母に来てもらいました。私は心密かに退院後は鎌倉教会へ戻らないつもりでいました。母は私の心の中を見通

すように、『信心していてもストレスとはどういう事？』といっただけで帰っていききました。私は退院するまで考えた結果、『他人は変えられないが、自分を変える事は出来る。』同じ環境に戻れば再発は必然的と医師から宣告されているからには、それしか道はないと思わせて頂き、退院後は自分を変える努力を致しました。

病後、五年目に夫の死、その三年後に先代教会長の死、そして一番波長の合わない姑とその後七年暮し、教会長の御用を何とか続けさせて頂いてまいりました。その姑も、終りに近付いた或る日、ベッドの上で初めて私に手をあわせ、『後の事頼みます』と申しました。

教会長になりましたから、私の辞書からは『大変』という言葉は消してきました。今でも毎日、私は自分のさせてもらっている事に、迷い続けています。これでいいのだ、という自信に充ちた生き方は出来ないのです。―

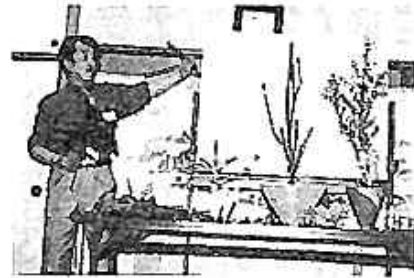
☆ありがとうございます。（今村則子）

# 「女性のつどい」

“いけばな”を通して“道”を学ぶ

3. 6. SAT 11:00~15:00

3月6日(土)、鶴見教会において、神奈川山梨連合会主催の「女性のつどい」が開かれました。今回の内容は、登戸教会の信徒で、池坊準華督の浅生信吉先生による、いけばなの講習会でした。講習は2回予定されていて、3月は講義と、講師によるいけばなのデモンストレーション、6月の第2回は実際に“いけばな”をいけてみる、ということになっています。



デモンストレーション中の浅生さん

十一時、開会行事のあと、先生のお話は、見ると観る、聞くとも聴くの違いについてから始まりました。「見る」はただ見ているだけ、「観る」は見ただけの心を描くことができるかということ。また「聞く」はただ聞いているだけ、「聴く」は聞いたものを自分のものとして咀嚼吸収できているかということ、なのだそうです。

“いけばな”は、元々、仏花や供花から発展したものであること、特に池坊は成り立ちがお寺であり、代々の家元は僧侶であること、“いけばな”には立花(りつか)、生花(しょうか)、自由花の3種があること、など、“いけばな”とは何かということ、“いけばな”の歴史や宗教的な意味合いについて、お話は進みました。

私たちは今回、この中の生花を勉強するのですが、生花は三つの役枝、真(しん)、副(そえ)、体(たい)から構成されていて、真は人を、副は天を、体は地を表していて、真が副と体にはさまれる形になっています。つまり、人は天と地の間にあって、生かされて生きているという意味合いが隠されているのだとか。最初の、観る、聴くも「見る聞く」を、神の目で見、神の耳で聞くという宗教的な気持ちを持って、自然に観る、聴くの境地に至る、とおっしゃっているように感じました。

講師の人柄のおかげで、講義というよりはトークショーの雰囲気でお話は進み、昼食休憩をはさんで、デモンストレーションまで、あっという間に終わりました。

昼食は村田光治先生と鶴見教会の方々で作って下さったスパゲッティ3種とサラダ、とてもおいしくて、頂きながら懇談の輪が広がりました。

せっかく楽しいお話なのに、参加者が少なく寂しい、どうしても会場教会の参加者が多くなる傾向があるので、こういう楽しい会合であることを知って頂くためにも、会場は、各教会回り持ちがいいのではないか、というような意見が出ました。

次回は6月の予定ですが、ぜひご参加下さい。お待ちしております。

— 大塚東子 (神奈川教会) —



↑皆さん、トークショー(?)に惹き込まれてます

PLACE: 鶴見教会

## 「ハワイの暮らし&日本の暮らし」

私の知る限りで、ハワイのデパートには「ハンカチ」が売られていない。

それは、子ども達がお世話になった幼稚園の先生方へのプレゼントを探しに、デパートへ行った時のことである。ごく安易な発想で「ハンカチでも…」と思ったのが間違いであった。服飾雑貨コーナーへ行って見たが、それらしきものは見あたらない。他の有名デパートも訪ねたが、ハンカチは置いていないとのことだった。

まさか?!という気もしたが、思い当たる節もあった。実は、ハワイに来てからというもの、夫以外の人がハンカチを使っている姿を見ることがなかったのである。もともと暑いところである。汗をぬぐうにはハンカチでは心許なく、タオルの方が実用であろう。もちろん日本でも最近はミニタオルを持つ人が増え、かく言う私も十年來の愛好者である。しかし、どうもタオルがハンカチに取って代わったというわけではなさそうだ。

また、英語教室のクラスメートの陽気なサモア人（ハワイと同じポリネシア系）のおじさんが、「オレたち皿もタオルも要らないのさ。リーブ（葉っぱ）があれば、ノーモア。パンツだって要らないさ」と、冗談で言っていたが、この時代、さすがにそんなことはハワイではあり得ない。

では、どうして身だしなみには欠かせないはずの、手や汗を、そして涙をぬぐうハンカチが、街から姿を消してしまったのだろうか。

まず考えられることは、ハンカチがなくとも困らない社会になっているということ。例えば、ごくわずかのビーチや公園を除いて、どんな場所や施設のトイレにも、ペーパータオルか温風乾燥機が備え付けられている。もちろん、小さな古びた食堂にも、それぞれ金光教の教会にもである。

また、日本ではどうてい考えられないことではあるが、学校の持ち物の中に「ハンカチ」が入っていない。子ども達は、あらかじめ納めておいたペーパータオル、ペーパーナプキン、ティッシュペーパーを、状況に応じてみんなで使用するのである。

要するに、大量消費社会の後押しを受け、生活の場からハンカチの必要性が消え、ハンカチを持つ習慣すらもなくなってしまったのであろう。

非常に「便利」で、「楽」で、「合理的」な社会。日本もそれを求め続けてきた。この調子だと、いつか私たちの手元からもハンカチが姿を消してしまうかもしれない。そしてその時、私たちは何を失った、何を失っているのだろうか。

それにしても、まさかハンカチが「絶滅危機」だったとは…。



# 天地金乃神大祭日程

教会名	日 程	時 間
津久井	4月17日(土)	午後1時30分
横浜西	4月18日(日)	午後1時30分
甲府	4月18日(日)	午後1時30分
南甲府	4月19日(月)	午後1時30分
藤沢	4月24日(土)	午後1時30分
鎌倉	4月25日(日)	午後1時30分
登戸	4月25日(日)	午後1時
大明	4月28日(水)	午後1時30分
川崎	4月29日(祝)	午後1時
子安	5月2日(日)	午後1時30分
横須賀	5月3日(祝)	午後1時30分
丸子	5月3日(祝)	午後1時
相模原	5月3日(祝)	午後2時
生麦	5月5日(祝)	午後1時
平塚	5月7日(金)	午後1時
鶴見	5月11日(火)	午後1時
大磯	5月14日(金)	午後1時
野毛	5月15日(土)	午後1時30分
神奈川	5月22日(土)	午後1時30分
小田原	5月23日(日)	午後2時
武蔵小杉	5月23日(日)	午前11時

## やまがみ通信

### 連合会より

#### ☆女性のつどい

“いけばな”を通して“道”を学ぶ  
 第2回—6月26日(土)開催  
 \*詳しくは、改めてご案内を教会宛送付いたします。

### 東京センターより

#### ☆「戦争」を考える懇談会

—イラク戦争1年を振り返って—  
 日時：4月13日(火)  
 19:00~21:00  
 会場：金光教東京センタービル  
 3階ホール  
 発題：関口昭子さん  
 (東京教会信徒)  
 門川良平さん  
 (金光教東京寮寮生)

\*主催：金光教非戦・平和ネット

#### ☆公開講演会

#### 【金光大神論の課題】

島薺進氏 (東京大学大学院教授  
 ・日本宗教学会長)

4月17日(土) 14:00~  
 金光教館(金光教東京教会)にて  
 \*詳しくは、チラシをご覧ください。

## 〈な・が・れ〉

あの子達は何処へ行ってしまったの？

鶴見教会 桜井信一

大祭のシーズンを迎えました。この頃は、土曜・日曜・休日に大祭を仕える教会が増えました。しかし、わざわざ土日休日に変更して大祭を仕えるのに、あの静けさは何なんでしょう。確かに参拝者が多ければよい、と言うこともないのですが、故福田源三郎先生は「参拝者も供え物の一つ、供え物が無いよりは沢山あったほうが神も喜ぶ」と教えて下さいました。

休みの日に大祭を仕えるのは何の為か、それは学校が休みだからなのです。子供の声で祭詞が聞き取れない程、その様な大祭に参拝したいです。会社は有給があり、その気になれば休みを取れます。しかし学校にはその種の休みはありません。休日に大祭を仕えるのは、子供の為なのです。

金光教 神奈川 山梨教会連合会

発行者 南 清 孝

編集責任者 横山 光雄

川崎市多摩区生田五―二四―九

金光教登戸教会内